



山梨の卸会社を買収

福井のメガネ企画製造YPC



契約に調印したYPCの山崎氏(左)とサンキ眼鏡の上村氏(右)

福井市でメガネの企画製造を手掛けるYPCが8月、山梨県甲府市のサンキ眼鏡を子会社化した。サンキ眼鏡は経営者の高齢化で事業承継先を探しており、商圏拡大や企画力強化を図りたいYPCと意思が一致した。福井県は鯖江市を中心にメガネフレームの生産が盛んだが、ほかの都道府県の企業とのM&Aは珍しい。

YPCは2017年創業。メガネフレームのOEM(相手先ブランドによる生産)が主力で、サングラスの「Swishore」などのオリジナルブランドも手掛ける。一方のサンキ眼鏡は1971年の創業のメガネ卸で、独自ブランドとして女性向けの「エス・プロログ」を展開している。サンキの上村征子社長は高齢のため、2年前から事業承継先を探していたという。

山崎博道社長は「サンキ眼鏡には妥協しないデザイン力がある。YPCと連携することで、企画

から製造まで一貫しての製造は今年5月、新型コロナウイルス」と話す。山崎社長によると、メガネフレームの製造は分業が進むたが求められる中で、スビめデザインと部品の製造、組み立てを別の企業から対面する契約交渉がすることも多い。同じグループ内なら企画と製造がより密接に連携して使用しやすい商品を開発できると、サンキ眼鏡が持つ関東圏への販売網も魅力だった。

YPCの山崎社長にM&Aの話が持ち込まれた

他地域の事業承継 デザイン力・販売網魅力

は「他地域への事業承継を希望する企業が増えている」と話す。親族ではない第三者承継の場合、お互いの事情が伝わりやすい地元と同業他社よりも、しがらみの少ない他地域の企業に承継したいと望む経営者の声を聞くようになったという。

山崎社長は「IT化が進んで距離のハードルは低くなっており、離れた地域でのM&Aは今後、増えるのではないかと話

買収額は非公表だが、YPCがサンキ眼鏡の株式を100%取得し、YPCの山崎社長がサンキ眼鏡の社長を兼務する。上村前社長は相談役として社内に残る。山崎社長は現在2社合わせて10人程度の社員数を「20人程度に増やしたい」と話す。開発に消費者目線を入れるなどの改革を急ぎ、3年後に計10億円程度の売上高に伸ばしたい考えだ。将来は企画や製造だけでなく、専門店舗の開設も検討する。

(鈴木卓郎)

北陸